



頃、この日の天候によつて稲作を占なつたり、この日、雨が降れば大雨が続くとか、地方によつていろいろの風習や物忌みが守られる」とのことです。

小豆島では、映画「八日目の蝉」でも取り上げられた江戸期から伝わる民俗行事「虫送り」がこの日に行われます。元々は豊作を祈願するとともに稲につく虫を追い払う農作業の一環の行事ですが、暮れなずむ水田のあぜ道を「火手」ほ

て」と呼ばれるたいまつをかざした親子が歩き、夕闇に炎が明滅する幻想的な光景は、映画の中でもとくに印象的でした。

雨の少ない気候と山から海までの距離が極端に短いなどの地勢上の理由から、古くから水不足に悩まされてきた讃岐高松にとつて、半夏生の雨は、有難い恵みの雨で

## 半夏生と雨とうどん

—大西 秀人—

あります。今年は、例年よりも早い梅雨入り後十分な雨が降り、早明浦ダムの貯水率も100%となつています。それでも、半夏生の日には雨が降ってほしいと願うのは、この地域に住む者の習い性でしょうか。

でもあります。丁度、田植えが終る時期にあたる半夏生にうどんを食べて農作業の疲れを癒す讃岐独特の風習にちなみ、「本場さぬきうどん協同組合」が定めているそうです。

「半夏生」と呼ばれる、この時期に葉が白くなり花を付けるドクダミ科の植物もあります。「かたしろぐさ」とも

言われるもので、白くなった葉っぱの一部が花よりも目立つ

ので、「半化粧」と記されることもある若いお色気を感じるような植物です。

半夏生の日には、外の雨に濡れる半夏生の白い花と葉を愛でながら、心穏やかに昼食のうどんをする。讃岐の国の幸せな日常です。

加えて7月2日は「うどんの日」

(高松市長)